



今年、コロナウィルス感染防止の為、京都東寺のお大師様の誕生会が東寺僧侶のみで行われ、沖繩から参加が叶わず残念でした。その分、沖繩から心を込めて遙拝しました。この様な状況でも出来る事を行う大切さに気が付きました。感謝！

## 三密 良啓



コロナ禍で話題になっている三密と言えば、  
1密閉空間 2密集場所 3密接場面。感染リスクの予防措置として政府が推進している回避行動です。

しかし、真言密教にも元々、三密と言う教えがあります。  
1身密(しんみつ) 2口密(くみつ) 3意密(いみつ) です。密教的悟りに至る具体的修行を表しています。

先ず、身密。仏様の御姿を思い出して下さい。仏様は、髪型、衣、手の形(印)など様々です。この違いは、功德や効能を象徴しています。形に意味を込める事が、悟りへの道につながります。

次に、口密。真言は仏様の言葉です。古代インドのサンスクリット語そのままを唱えています。お大師様が「真言は不思議なり。一字に千里を含む(般若心経秘鍵)」と述べている様に、真言に備わる不思議な力を導き出します。

最後に、意密。教義や功德を深く考え、仏様の心と同化する。

これら三密行は、何も僧侶や特別な人の為の修行ではありません。誰でも取り組んで良いとされています。オススメが写経です。筆を持ち(身密)、お経を唱え(口密)、心に仏様や教義を持つ(意密)。これで完成です。意外と簡単です。他に座禅も良いと思います。

この様に、コロナの三密は避けて、真言の三密を実践してみても如何でしょうか？続ける事で大きな功德を得ることが出来ます。

## 琉球民話

### 【田芋の由来】 奈緒子

今回ご紹介するのは、1731年頃(日本は徳川吉宗將軍の時代)に書かれた琉球の正史『球陽』の姉妹編で、琉球王朝の役人四氏によって集められた琉球の伝説・民話「遺老説法」です。戦前に翻訳がなされ出版されました。それを再編集し、1960年に琉球民話集として再販された物が『琉球民話集』です。この古い民話の中にも、実はたくさんのお寺やお坊さんが登場します。その中から一つ、宜野湾の名産でもある**田芋のお話**をご紹介します。

昔、中城の糸蒲と言う所に一つのお寺があり、名を糸蒲寺と申します。この寺のお坊さんは金武村の人で、ある日近くのあぜ道を歩いている時、ふと田芋が溝に生えているのを見ました。今まで一度も見かけたことない葉や枝なので大変珍しく思い、それを寺に持ち帰り庭先に植え付けました。

それから月日がたったある日、掘り起こして見るとかわいらしい田芋が、次々と出ること出ること。瞬く間に山盛りとなりました。喜んで早速鍋で炊いて食べると、その味はまた格別で、なんとも云われぬ美味でした。

そこでこの田芋は、食物として大変有益なことを知り、近隣の人々にもそのことを教えました。村人も大いに喜んで田芋の種を分けて貰い、めいめい栽培するようになり、その後だんだん他の地方にもひろがり、国中いたるところ植えられることになりました。

宜野湾名産の田芋を

広めたのは、なんと

お坊さんという民話です。

神宮寺にも宜野湾に

まつわる御守や御朱印帳が

あるので、ぜひ参拝時に覗いて下さいね。



### 神宮寺宜野湾にまつわる授与品

- ・じのん健康守 (並松)
- ・はにんす守 (はごろも)
- ・ナンマチ
- 御朱印帳(並松)
- ・勝守り



(中体連・県総体応援！)